

品質・環境・労働安全衛生、さまざまな側面で マネジメントの質の向上に努め、適切に運用



経営推進本部
生産・品質統括室長

野村 重夫

生産拠点では、生産効率の向上とともに、品質、環境、労働安全衛生、さらに最近では人権、倫理や災害時等の事業継続まで、多様な取り組みが求められます。生産・品質統括室は、OKIコーポレートの各部門と協力して、こうした各種マネジメントの質の向上、効率化に向けた支援を生産拠点に提供しています。法令やお客様の要求はもちろん、お取引先や社員、地域社会も含めた幅広い視点で考え、将来的なマネジメントの統合も視野に入れながら、「共生する生産拠点」の運営を進めていきたいと考えています。

生産拠点で求められる さまざまな社会的責任

OKIグループは、日本国内のほか中国、タイ、英国などに生産拠点をもち、グローバルに生産活動を展開しています。ものづくりに取り組む現場では、製品の品質の厳格な管理はもちろん、生産に伴う環境負荷の低減、製造現場で働く社員の労働安全衛生への配慮など、メーカーならではの幅広い取り組みが不可欠です。OKIグループでは、「OKIグループ企業行動憲章」にこれらの項目を掲げて取り組み、社会的責任の遂行に努めています。

グローバル規模でCSRに対する関心が高まっていることを受け、近年ではこれらの取り組み状況が、取引条件に具体的に盛り込まれる例も出てきました。こうしたお客様のご要望にお応えし、取り組みの状況を的確にご説明するためにも、OKIグループはグループ全体で、また各拠点において、これらを適切に管理する仕組みの充実を進めています。

それぞれのマネジメント システムの構築と適切な運用

品質に関しては、コーポレート(本社部門)に品質統括部門を設置するとともに、各カンパニーおよびグループ各社に品質保証部門を設け、お客様に確実に「安心」をお届けするための品質保証活動に取り組んでいます。またすべての生産拠点でISO9001の認証を取得し、生産ラインや製品特性にあわせた最適な品質管理体制を構築しています。

環境については、拠点単位の活動とカンパニー単位の活動を縦横に組み合わせ、グループ全体で効率的に環境活動をマネジメントする「全社ネットワーク型環境経営」を推進しています。その一環とし

てISO14001は統合認証を取得し、その認証範囲を拡大しています。2007年度は初めて対象に加わった中国の2拠点をはじめ、10拠点を追加しました。今後さらに他の海外生産拠点へも認証範囲を広げ、環境法令などへの適合性を強化していきます。

労働安全衛生に関しては、生産拠点ごとに労使で構成する「安全衛生委員会」を設置して日常的に管理しているほか、本社担当部門が共通の基準に沿って各拠点の管理状況を確認する「安全実査」を2001年度から毎年実施しています。



新たにISO14001統合認証に加わった
日沖電子科技昆山サイト

地域社会との良好な 関係のために

こうしたマネジメントシステムの運用による安心・安全な操業の実現に加え、操業している地域の発展に貢献することも、企業に求められる社会的責任の一つです。雇用、社員の人材育成といった社員を通じた貢献はもちろんのこと、地域の皆様とのコミュニケーションや地域貢献活動に積極的に取り組んでいます。



タイのプリンタ生産拠点OKI Data Manufacturing Thailandでは、「環境の日」に社員に木の苗を配布し、家庭や地域でのCO₂削減を支援



Column

環境・品質・労働安全衛生の統合的なマネジメントを推進

沖微型技研(香港)有限公司〈中国工場〉東莞塘厦沖美億電子廠

中国広東省東莞市にある東莞塘厦沖美億電子廠は、OKIグループのモーター・アクチュエータ専業会社OKIマイクロ技研の中国現地法人である沖微型技研(香港)有限公司の生産工場です。



生産革新に取り組む製造ライン

中国でのモーター生産量の増加を受け、2006年4月に新たに立ち上げたこの工場では、現在、約600名の社員が、OA機器などに使用されるステッピングモーターの生産に従事しています。

経営方針をマネジメントシステムの中で具現化

同工場は、設立計画の段階から先進的な取り組みを進めてきました。まず幹部候補となるべき現地の優秀な人材を採用。彼らを核として2005年末に工場設立の準備を開始し、約半年という短期間で量産体制を確立、開業に漕ぎ着けました。



OKIグループの安全実査により、安全衛生の状況を確認

開業にあたり掲げた工場の経営方針は、「会社と、共に働く人が、明るい未来(希望のある目標)に向かって、一步一步確実な変化が見えるように(行動)

したい!」。これを実現するために取り組んだのが、品質・環境・労働安全衛生などの管理体制の構築です。開業2ヶ月後の2006年6月に品質および環境のマネジメントシステム認証を取得、さらに10月には労働安全衛生の規格であるOHSAS18001の認証を取得するに至りました。

社員各人が出身地域・民族などさまざまに異なる文化的背景をもつ中国において、こうしたマネジメントシステムの整備は非常に効果があります。研修や教育訓練を通して一人ひとりの責任感と積極性、さらには職場の活性化をもたらしています。

OKIグループとしての視点からマネジメントを充実

2007年度にはOKIグループのISO14001 全社統合認証に加わったことで、効率化が可能となりました。さらには「OKIグループ行動規範」の採択を



ISO14001全社統合認証の授与

きっかけとして、労務・倫理面についても取り組みを強化。国際的な人権・労働の規格であるSA8000の社内勉強会を開始し、すでに約30名が内部監査員の資格を取得しています。

今後は、これらを統合した「品質・環境・労働安全衛生・労務倫理管理マニュアル」などを整備し、安心・安全の確保や品質・生産性の向上を通じて、お客様や地域社会、そして社員に対する社会的責任を「一步一步確実」に果たしていく考えです。

社員の声



東莞塘厦
沖美億電子廠 副廠長
郭 小非

私たちは、OKIグループの企業理念に掲げた「世界の人々の快適で豊かな生活の実現に貢献する」に基づき、お客様に優れた品質の製品をお届けすること、そして、ともに働く社員のよりよい職場環境を実現することを、重要な責任と認識しています。そのため開業当初から各種のマネジメントに取り組み、さらに2008年からは生活改善のための“三減三増活動”を始めました。これは、残業時間を減らすとともに無駄をなくして生産効率を向上させ、余暇を含めた生活面の充実や各種制度の整備を進めようという取り組みです。これにより、社員の満足度のいっそうの向上をめざします。